
拝啓、 Egregio Signore ,

麻生柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

挾啓、 Eggerio Signore ,

【NZコード】

N6062M

【作者名】

麻生柚葉

【あらすじ】

Eggerio Signore , ho ucciso a

僕が愛した、たつた一人の君へ
この手紙を送ります。

イタリア語は終末アリスト様 (<http://nanos.jp/page/11174/>) からお題お借りしています。

ご機嫌いかがでしょうか？

僕の方ははと言つと、君がいない寂しさでどうにかなつてしまいそうです。

・・・君の方も、少しでもそういう想つてくれているのなら嬉しいかな。
だからこれは僕の自己満足になるのだろう。
この手紙は、決して君へは届かない。
だけど、僕は君に送るためにこの手紙を綴りつと思つんだ。

こんな事を書いたら、君は怒るかな？

今更だ・・・、なんて言つて許してくれないかもしねれないね。
見もせずに破り捨てるかもしれない。

逆に、馬鹿だと僕を笑うかもしねないね。

もう、会うことの出来ない君に思いを馳せて
僕は、想像しかすることが出来ないよ

ねえ、君は今何をしていますか？
ねえ、君は今何を思っていますか？
ねえ、君は今・・・幸せですか？

いくら、問うても君は答えてくれないね。
だから、僕は一方的でも良いから君に送りつ。

この手紙を、この言葉を
今更な、僕の思いを君に・・・

拝啓、

Story 01 Egret syndrome - no succision

「Fantastic Syndrome」醒めない夢スピンオフ

Story 02 Il primo amore, che ha amato

Il primo amore, che ha amato
a fine, ancora.

君が居なくなつたからこそ、気づいた思いがある。
失つてからこそ、強くなつた思いがある。

僕は、君が大切だった。
僕は、君が好きだった。

いや、“だつた”と過去形にしなくてもいいね。
現在進行形で、僕は君が好きなんだと思う。
この手紙を書いている、今でさえも

この思いは、可笑しいだろうか？

きっと君は、僕の思いを笑い飛ばすね。
君はそんな子だつたから。

愛の告白で顔を赤らめるような可愛らしい女の子じゃ無かつた。
そんな物、まやかしだと言い切るような子だつたね。

飾り気の無い、そんな君。

不思議な力も可笑しな力も持つて無かつた、そんな君。
可愛らしい性格も、愛くるしい仕草も持つて無かつた、そんな君。

だけど、

ただ、僕の傍に居てくれた君が好きだ。

もし、君が今でも僕の傍に居たとしても
君はこの思いを受け取つてはくれなかつただろう。
だけど僕は胸を張つて言えるよ。

最初に恋したのも、最後に愛したのも、やはり君でした。

Story 03

Vedo un sogno mi auguro la sua

Vedo un sogno mi auguro la sua
magia

いつでも願つてた。

素敵な魔法があれば幸せになれるのについて
そんな反則的な力が僕にあれば、少しお話の結末は違つていただろ
う？

君は幸せじゃなかつたかもしない。
でも、少なくとも僕は幸せになれた。
そう、思わないかい？

幸せは自分で手に入れる。むしろ奪い取る
これが君の口癖だつたね。

君の幸せを奪つて、僕が幸せになれば良かつたんだけど。
僕の幸せは、ごつそり君が取つて行つてしまつたようだね。

と、なると

君は今とても幸せなんだろ？

幸せそうに微笑んでいる姿が目に浮かぶよ。

それなら、それで良いのかもしれない。
悲しんでいる君を想像するよりは、楽しんでいる君を想像する方が
ずっと楽だ。
それに僕の気持ちもずっと穏やか。

だけど、ちょっと苛つくかも。

だって、君は僕の知らない所で幸せなんだ。

それは少しずること思う。

想像だけで、こんな風に思うなんて馬鹿みたいだけどね。
想像する事を止められないんだ。

ねえ、君はどう思う?

愚かな事だと分っていても、僕は願わずには居られない。

ずっと夢を見ていられる魔法があればいいのに

Allontana da lui, manon dimen
ticare.

君に一度と会うことが出来なかつたとしても。
君の声を一度と聞くことが出来なかつたとしても。
神が僕たちの記憶を消し去りうとしようとも。

僕は、約束しよう。

ノスタルジアにはならない事を

神に・・・いや、君に誓つよ。嘘じやない

往生際が悪いって？

仕方ないだろ。これは君に似たのさ。
どれだけの間一緒に居たと思っているの？
少し君の性格が移つてしまつたみたいだよ。
どう、責任取ってくれるのさ。

それなのに、それなのに

君は僕にとっての水の様な存在だつたのに。
勝手に消えちやうなんて酷い人だ
挨拶さえ、無かつただろう？

だけど、分かつてゐるさ。僕だつて。
君が望んで消えた訳じや無いって事は。

君が逝つて、もう随分経つ。

ねえ、いくらなんでも君が死ぬには早すぎただろう？

独りぼっちの僕は、これから先の長い時間をどうすればいいって言うんだい。

時が僕らを引き裂いて、世界が僕らを憎んでも
僕はこの思いを貫こう

離れてしまつたけど、忘れるつもりはないから。

L'amore ? sinonimo di omicidio
e di me.

気づかなかつたけれど

僕は君を愛すると同時に憎んでもいたらしい。

まったくもつて、感情とは摩訶不思議さ

僕の思い関係なく育つて一人歩きしてしまつ事だつてある。

自分の事は自分が一番理解していると、そう言いたいんだけどね。
やつぱり、制御できない感情なんでもあるらしく。

じゃなきや、僕は君を殺したりなんかしないだらう？

あの時はまだ、僕は君が好きな事に目を逸らしていたのか・・・
気付いてなかつたけどさ。
あつ、勿論大切な存在だとは思つてゐるよ。

そんな君を僕は殺してしまつたんだ。

その時の事は、曖昧で靄がかかつたように、よくも覚えていないけど・・・

君が僕の傍に居ないつて事は、そういうことなんだらう？
愛想をつかしたとか喧嘩したとか、そんな事で離れ離れになる様な
間柄じやないし

そんな、ちやちな絆でもない。

本当に、君は酷い人だね。

僕をかき回すだけかき回して、あっさり逝つちやうなんてさ。
まあ、原因は僕かもしれないけど。そこは」めんね。謝るよ。

何?誠意が籠つてないって?

だつて、仕方がないじゃないか。

僕が君を殺してしまったことは事実でも、その事実を僕は覚えていないのだから。

君は怒るかい?それとも許さないと、僕を憎むかい?

いや、馬鹿だなって僕を馬鹿にするだけだろ?ね。

君はいつだって自分自身の存在に無頓着だったから。

ねえ、君は知っていた?

愛と殺意つて同義なんだよ。

Il destino di amore non corrisponde.

君と僕が出会えた事は、そう、奇跡なんだろう。

誰も君を知る事は無い。

僕だけの君。

誰も君の可愛さを知らない。

知っているのは、僕たった一人だけ。

本当は皆に君の事を自慢したかったんだ。

誰よりも可愛い君を

そんな事したら、病院を紹介されそุดから心の中で思うだけだったけど。

ねえ、分っているの？

僕は君の姿に惹かれた訳じゃない。

だって、僕も見た事無いし。

僕は君の体に興味を持つた訳でもない。

体を持たない君に、そんな事言つても無駄だろう？

君は、僕の事を狂っていると思うかい？

だけどこの気持ちには一点の曇りも無い。

そして、偽りは何一つ無いよ。

ただちょっと、気づくのは遅すぎたみたいだけね。

もう一人の僕

僕の中で生まれた君

君の事を、人はどう表現するのだろうね。

ただの妄想癖、もう一つの人格、何かに憑依されていた・・・

何とでも言えばいいと思う。

僕にとっての君は大切で愛しい人。

例え、どんな存在であろうとも、僕の想像上の人だったとしても
愛しい人、それだけで良いと思うんだ。

君はそう思わないかい？

これは運命の片想い

Non hai bisogno in questo mondo
non? con voi

本当は、君を追つて逝こうかとも思つたんだ。
だけど必ずしも君に会えるとも限らないだろ？
確証の無い賭けはしないほうなんだよ。僕は。

それに、もし僕がこのまま後追い自殺したとしたって君の所にいけるとは到底思えないんだ。

だって、君は人間じゃなかつたしね。

もしも、僕が君の所に逝く事が出来たとして、
君は僕の事覚えて無いかも知れないね。
君はいつだって他人の事を見てばかり
僕には見向きもしてくれなかつたよね。

一緒に居てくれたのは、ただ僕から生まれたから、もしくは僕に憑
依していたからだろ？

それ以上でもそれ以下でもない。

君にとつての僕はただの家だつたに違いない。

愛着を持たない、しかも引越しの出来ない譲り受けた家。

そんな存在。

だって、どんなに君が僕に興味を持つていなくたつて君は僕の中から出ることが出来なかつたんだから。

だから、君から僕を迎えてくれる事なんて無いだろ？。

天からのお迎え・・・

天使的な君を想像してみよっとして、駄目だったよ。

だって、君はどちらかと言つと悪魔だろ？？

迎えと言つより、君の場合は誘拐だよね。

君は君の気に入った人しか見向きもしない。

僕が君に攫つて欲しいと願つたところで

気に入られない僕は、君に誘拐される事は永遠に無いだろ？ね。

だから、諦める事にしたんだ。

君にもう一度会うことは。

君を思い続けることは、一生止めるつもりは無いけどね。

本当は、君が居るなら、僕は天国だつて地獄だつて・・・
何處だつて良かつたんだ。

だけど、それすら君は許してくれないね。

君と一緒にこの世界じゃなくたつていいんだ

Story 08 Sara spezzato per amore come in tutto il mondo

Sara spezzato per amore come in tutto il mondo
例え、世界が壊れていっても君を愛し続ければ良い。
そんなの簡単や。
だって、君が僕の世界の全てだから

君が居なくなつて、世界が色褪せてしまつても壊れてしまつても
君と言う存在は確かに居たんだ。
それだけで僕は生きていく。
君を愛する、この思いだけで僕は生きていくよ。

本当に君の存在は僕にとって大きいね。
ありがと、言つべきなんだろうか。
それとも、こんな思いを抱かせた君に出会つてしまつた事を悔いる
べきなのか分らないよ。

でも、君と出会わなかつた事を考えるとこの色褪せた世界でも不思
議と愛おしく感じるんだよ。

君が存在した世界だから、君が生まれた世界だから
この世界にもう、君が居なくともこの世界ごと僕は愛せるよ。
こんな僕を、人は狂つていると言つんだらつ。
だけどね、僕自身はそうは思わないよ。
人が何のために生きるかなんて、人それぞれだ。

不特定多数の大勢を普通と呼ぶならば、僕はそれに当てはまらない異端なんだろ。

だからといって、その普通が正しいとも限らないと思うよ。どうは思わない？

何も考えずにただ過ぎる時間を流れながら生きている人と比べると、ずっと有意義だ。

ああ、話がずれてしまつたよ。参ったね。

結局何が言いたかったのかと言つと、僕は君に人生狂わされたなんて思つてないし、勿論恨んでなんかこれっぽっちもいない。

君の事を愛し続けるのは僕の勝手だし、僕がこんな風になつてしまつたのも君の所為じやない。

だから君は気にする事は無いし、気に病む事も無いよ・・・って言いたかつたんだけど

君なら言わなくても気にも留めないよね。分つてるよ。

壊れていく世界で恋をする方法

Story09 ? necessario, non si pu?

necessario, non si pu?

necessario, non si pu?

necessario, non si pu?

? necessario, non si pu? uccidere.

今ではね、絶対に死んでやるもんか。
なんて、思つているんだ。

自殺とか、事故とか世の中には溢れかえつていてけどそんなの関係
ないさ。

僕は、意地でも死なない。

だつて、君は僕が殺したんだから
僕の事は君が殺してくれなくちゃね。
そうだろ？

いつだつて待つてるよ。僕は
迎えでも、誘拐でなくても構わない。
僕への死の宣告は君がしてくれ。

想像でこんな事を言つなんて馬鹿みたいな事だと思われるかもしけ
ないけれど

何でかな、理由の無い確証があるよ。

君は、きっとそういう存在だ。

今では僕の届かない所に居る君は、そう死神にも似た存在じや無い
かつて思うんだよ。

僕と君は切つても切れない絆があるから、そういう事が分るんだと

思つ。

不思議だね。僕と君は離れていても繋がっている。
そう考へると嬉しくて、なんだか心が温かくなるよ。

僕は君であり、君は僕だ。

なんだか変な感じだけど、言ひえて妙だらう？

今では分かれ別れているけれど、僕と君の一一番最初の根本は同じ
なんだから

だからね、いつだって構わない。

いつまでも待ってるよ。君が僕の所に来てくれる事を

君じゃないと、殺せない

Story10 Non ? morto , ha sempre avuto .

Non ? morto , ha sempre avuto .

死後の世界ってどういう所なのだろう。

君の逝った世界を最近よく空想してみるんだ。

よく言う、地獄みたいに恐ろしい所なんだろうか。
それとも天国みたいに穏やかな所なんだろうか。

だけどね、君は何処でだつて幸せを掴み取つていそうだよ。
自分色に周りを染めて、自分の思い通りの世界に変えていそうだね。
もはや、世界征服を果たしていそうで怖いよ。

君は喧しい所が嫌いな人だつたから、きつとそこは静かな場所。
草花とか植物が好きだつたから、きつと縁に溢れているんだろうね。
特に君は薔薇の花が好きだつた。

容姿や形じやない、その香りが特に。

だから、薔薇の香りがほのかに漂つていてるような甘い空間だろう。
そんな場所で気に入つた人を周りに置いて

観察したりちよつかい出したりと楽しく過ごしているんだろうね。

元の場所がどんな場所であるつとも、もう君好みに変わつてしまつ
ているだろう。

本当に君は恐ろしい子だよ。

長年一緒に居た所為か・・・いや、愛の成せる技と言つておひづり。
想像に難くない。

「うやつて、考えてみると君は死んだといつ定義が間違っているよ
うに思う。」

君は死んだのではなく、違う世界に行った・・・とかね。
どうだろう?

僕の考えも的外れじゃないと思うんだけど。

だって、君が大人しくしているとは僕は到底思えないんだ。

大人しく僕に殺される君、大人しく僕の世界から弾き出された君
・・・うーん。やっぱりどうもしつくり来ないよ。

切欠は僕にあつたのだろうし、僕の所為なのは間違いないんだろう
けど

君は嬉々としてそれを受け入れた。そんな気がしてきたよ。

やっぱり君は

死んでないよ、君は永遠になつただけ。

「Blue Letters promise a

君に送ろう

青い青い薔薇の花を

君は薔薇が好きで、僕は青が好きだ。
だから、二人合わせて“青い薔薇”

素敵だろ？？

青い薔薇の花言葉は「不可能」そして「奇跡」だ
君にピッタリだね。

これは僕と君が存在したという証
そして、僕と君との絆の印さ

生憎、青い薔薇の生花は存在しないから造花で我慢してね。
君の大好きな薔薇の香りは、香でも焚いておくことにするよ。
君自身に届けることは出来ないけれど、僕の部屋に沢山置いておく
から

いつの日か、取りに来ておくれよ。

僕はいつだって待っているから。

君に気に入られるような人間になれるよう、進むのを忘れずにね。
何での時に見向きもしなかったんだろうって後悔するくらいに良
い男になつてあげるよ。

全部全部、君の為に、君だけの為に

約束だよ。

絶対だ。

ねえ、ドルチ

「青い約束をしよう」

Story12 Un poscritto, non tiricomprendo

Egregio Signore, ho ucciso a

拝啓、僕が殺した君へ

ドルチエ、君の事を愛しているよ。

世界中の誰よりも。

いや、世界を超えて、誰よりも

この想いは、僕の一一方通行でかまわない。

君と出会えた事に感謝しよう。

他でも無い、君が僕の中で生まれてくれた事、僕の傍に居てくれた事、とても嬉しく思うよ。

その事実だけで、僕は満足だ。

ねえ、君は僕と出会えた事、僕と過ごした時間、僕との思い出・・・
どんな事だって良い、どんなに些細な事でも良い
少しでも、僕の存在が今の君の中にあるかい?
あると嬉しいな。そう願っているよ。

遠い彼の地より、愛を込めて ドウルセ

Un poscritto,
追伸、

e . Non ti ricompensa
mi ero felice

報われなくたつて僕は幸せだったよ。

青い薔薇の少女・醒めない夢でお馴染みのドルチェの спинオフ（？）な創作です。

彼女は元々人間ではなく、僕の中の人格の一つだつたと。二重人格のかたっぽ的な何かですかね。

何かが憑依していたと考えてくださいっても、同じ事です。

ドルチエはドルセから生まれた実に曖昧な存在・・・らしいです。しかし、しつかりと“ドルチエ”として意識も意思も人格も持つて居るドルセとは別の人間（？）です。

この小説は手紙と言う名の独白文ですが、徐々に事実が浮かび上がつてくるというのをモットーに書きました。

初めは、会うことの出来なくなつた人への手紙

差出人は彼女の事が好きだつたらしい

好きになつた大切な人と喧嘩別れ？

いや、実は彼女は死んでいた。

しかも病気や事故で死別ではなく、なんと彼が殺したらしい

犯罪じや？ 彼女は彼の中の一つの人格らしいから罪じやない。だ

つて、彼女は“彼”でもあるから。

確かに彼女は彼の中から消えたけど、それを“死”と言つのは変かもしれない。なんか別の世界に居そうだよ・・・

とまあ、よく分りませんが。

彼が想像した彼女の世界はそのまんま正解です。

彼が一番彼女の事を理解してますしね。

逆に、彼の思考も彼女の思考と重なります。

伊達に“元が同じ”な訳ではありませんから、ドルチエは薔薇の中でも“青薔薇”を身に着けてる訳ですよ。

ドルチエが彼を好きか嫌いかと言われると、興味無いの一言でしょうけど。

最後まで読んでくださりありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6062m/>

拝啓、 Egregio Signore ,

2010年10月10日04時38分発行